

学生ボランティア感想

学生ボランティアを受け入れて



宇都宮市立旭中学校日本語指導教室担当

船山 千恵

本校は、外国人児童生徒教育拠点校に指定されています。現在、中国、ペルー、フィリピン、ネパールにつながりのある8名の生徒が通級しています。8名のうち、3年生は5名です。

その5名の中でも、中2の秋から来日したOさんは、支援がより必要な状況であったため、学生ボランティアの派遣を依頼し、昨年度から荘敏霖さんに来ていただきました。進路を見据え、3年生になった今年度からは張蒙さん、遲宸琳さん、李文暢さんにも協力をいただきました。合わせて4名の学生さんたちに、5教科を中心に2時間ずつ入り込み支援をしていただきました。

学生さんたちは、それぞれの論文執筆など、学業や就職活動で多忙の中、スケジュールを調整しながらOさんのために熱意をもって支援してくれました。一斉授業の中で、学習を理解す

るには難しい状況であったOさんは、「今日、学生ボランティアさんは来ますか?」と、学生さんたちの来校を毎回楽しみにしていました。学生さんたちによる母語支援により、Oさんは安心して授業を受けることができました。

また、学生さんたちは、単に受験に向けて教科学習を支援するだけでなく、日本語でうまく自分の気持ちを伝えることのできないOさんの悩みを聴き、中国と日本の学校生活上の違いなどをOさんに伝えてくれました。

弟を思う姉や兄のような優しさの中にも、「授業中は集中する」、「やるべきことは自覚をもってやる」などと、熱心で真摯な姿勢でOさんに向き合ってくれた学生ボランティアの皆さんには、本当に感謝しています。ありがとうございました。

学生ボランティア感想

ボランティアの方へ 感謝をこめて



真岡市立真岡小学校日本語教室主任

菅谷 真由美

本校は、外国籍の児童が各クラスに2~3人と、比較的外国人の多い小学校です。ただ、入学前に幼稚園や保育所に通っている児童が多く、日本語教室での個別指導は必要ですが、自教室で他の児童と一緒に活動できる子がほとんどです。

しかし、昨年7月に、全く日本語の分からないI君が、編入してきました。日本語が通じただけでなく、集団生活をするのが初めてというI君。本校には日本語指導助手の先生が来

てくださっていますが、翻訳文書作成や保護者の対応などもしていただいているので、彼への支援の時間が十分取れません。そこで、学生ボランティアの方の派遣事業に申し込みました。

すぐに対応していただき、夏休み明けから現在まで、お二人の方が、ご自分の授業の合間に来てくださっています。国語や算数の時間には、個別指導をお願いしています。1年生の教室では、担任の先生の話伝えるだけでなく、体育や図

工等の学習の補助もしてくださっています。図工が終わった後、空き箱で作ったペンギンを見せてくれたときのI君の笑顔は、とても印象に残っています。本校に来て6か月のI君。今ではひらがなの読み書きができるようになり、漢

字にも興味をもち始めました。学校生活に慣れてきて、明るい表情で生活しています。学生ボランティアの方への感謝の気持ちでいっぱいです。これからもよろしく願いいたします。

令和3年度 子ども国際理解サマースクール報告

内なる国際化

国際学部 3年

下村 由紀那

私は今回、イベントの司会と第一部の「日本の中の外国」というテーマで、日本にどのくらいの外国人が住んでいて、どこの国から来ている人が多いのか、また栃木県内ではどのくらいの外国人児童生徒がいるのかなどをクイズ形式にしなが、身近に「外国」「国際」があるということをお話させていただきました。クイズを進行していく中で、子どもたちに「なぜその回答を選んだのか」聞いて回っていました。「なんとなく選んだ」という答えがほとんどでしたが、中には「テレビや授業で聞いたことがある」、「外国に興味があるから知っている」、「KPOPが好

きだからコリアタウンは知っている」など、私の予想よりはるかに外国に興味を持っている子どもたちが多かったことが驚きでした。休憩時間に子どもたちに「同じクラスや学校に、どのくらい外国にルーツを持ったお友達いるの?」と聞いて回ったところ、ほとんどの子どもたちが「1～3人はいる」と回答していて、改めて栃木県内の外国人児童生徒の多さと、これが「外国」を身近に感じる理由の一つだと知りました。(初出:『令和3年度子ども国際理解サマースクール記録誌』)

より広い世界へ

大学院地域創生科学研究科 2年

崔 敬 恩

今回韓国の紹介を担当しました崔敬恩です。私は韓国から来た宇都宮大学院の学生でありながら、二人の子供の母親です。サマースクールの参加者が自分の子供と同じ小学校4～6年生という話を聞いて、単純に韓国を知って終わるのではなく、これを始めに楽しい!もっと知りたい!に繋がるきっかけになって欲しい気持ちを込めて紹介内容を構成しました。自分の経験から見ると、海外で自分を紹介するには、相手に自分の国について教える必要が多くありましたので、日本を意識しながら私からの韓国紹介を理解するよ

うに、韓国と日本を比較紹介しました。日本の多文化を身近に理解できるように日本にいる外国人(私や私の家族)も自己紹介を通して取り組みました。韓国の同級生の話をしたり、韓国人のお友達に使えるような韓国語の挨拶練習もしました。最後の質問コーナーには子どもたちから予想よりも多く質問があつてとても嬉しかったです。これからも子供たちにより広い世界への多様な関心が芽生えることを期待します。

(初出:『令和3年度子ども国際理解サマースクール記録誌』)